

英語科学習指導案

日 時：平成25年6月18日（火）5校時

展開学級：千葉市立稲浜中学校 1年B組

場 所：ホワイトルーム

授 業 者：橋本千尋

単元名 Lesson 2 “My school” NEW CROWN 1

1 単元の目標

- (1) 友達のスピーチに興味を持ち、グループで協力して質問したり、感想を述べたりしようとする。
- (2) is(be 動詞)を用いて、スピーチの内容を聞き手に伝える。
- (3) is(be 動詞)を用いて、スピーチ原稿を適切に書く。
- (4) 学校を紹介した英文を、正確に聞き取ったり、読み取ったりする。
- (5) is(be 動詞)を用いた文の意味と構造を理解する。

本単元の指導に当たっての考え方

本単元は、外国人講師として学校にやってきたブラウン先生に、健や久美、ポールが学校を案内するという内容である。理科室にある壁のイラストや図書室にある本、体育館を紹介する生徒とブラウン先生との会話文の中で、is(be 動詞)の導入を行っている。また、導入に続き、is(be 動詞)を用いたリスニング活動・スピーキング活動に取り組むことで、段階を追ってis(be 動詞)の定着を図ることができる。

国際化が進む現在、日本にやってくる海外からの観光客や移住者は年々増え続けている。そのため、生徒の日常生活においても、外国人とコミュニケーションする機会が多くなっていると考えられる。また、海外に出ていく日本人も年々増え続けていることから、英語を使い人前で発表する機会は今後も多くなってくると考えられる。それは同時に、発表した内容に関して臨機応変に英語で返答し、質問や意見・感想を返す力も求められていることを意味する。こうした継続性のある英会話力を育成するために、すでに学習済みの文法や表現を用い、連続的な英会話が成立するような表現活動を多く取り入れていくことが望ましいと考える。

以上のことを踏まえ、本課の指導では最終段階として、is(be 動詞)を用い、英語でスピーチを行う活動を取り入れていく。また、スピーチの内容に関して問答を行う活動に発展させることで、会話の継続を促していきたい。特に最終段階では、「聞く力」と「話す力」の育成に努める。ここでの「聞く力」とは、「必要な情報を聞き取る」と「相手の意図することを把握する」ことを意味する。また、「話す力」とは、「スピーチの内容を聞き手に正しく伝える」ことを意味し、重点的に指導に取り組みたい。同時に、この表現活動を通じ、コミュニケーションに対する意欲や積極性を高めていくことに加え、生徒同士の人間関係の育成にも努めたい。

前述した通り、本単元で扱う主な言語材料は、is(be 動詞)である。既習事項である am・are(be 動詞)に加え、is(be 動詞)を学習することで、自分や相手以外の第三者についてより多くのことが語れるようになる。is(be 動詞)については、I am や You are の復習を交えながら導入し、三つの be 動詞の定着を図っていく。自己表現を豊かにするための手立てとして、本文を扱う際に、リスニング練習と音読練習をしっかりと行い十分なインプットをすることに加え、is(be 動詞)を使った一問一答形式の対話やその他の言語活動を経て、スピーチにつなげていきたい。今回は、既習事項である am・are(be 動詞)と is(be 動詞)のみを用いるという文法的制限の多い中での表現活動となるが、今後の表現活動の発展につながるよう、会話の継続を積極的に促していきたい。

研究主題との関連から

本校の研究主題は「自ら学び、心豊かに生きる力を身につけた生徒の育成」である。この研究主題を受け、英語科では、「自ら学び」を「主体的に学習に取り組む」、「心豊かに生きる力を身につけた生徒の育成」は「ペアやグループで協力し学習に取り組む中で、よりよい人間関係を築くこと」ととらえ、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成 ～連続的な対話を意識した表現力の育成～」を研究主題とした。

本時の指導では、まず最初に、一問一答形式の対話を行うことで、is を中心とした be 動詞により多く触れさせ、会話を継続させる手段を身につけさせる。その後、「私の好きな有名人」について一人30秒スピーチを行い、質問や感想の交換に発展させることで、表現活動を継続することに努めていく。

2 生徒の実態 (男子18名 女子15名 計33名)

〈 略 〉

3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語・文化についての知識・理解
<p>《言語活動への取組》</p> <p>① 有名人を紹介するスピーチに興味を持ち、グループで協力して質問したり、感想を述べたりしようとする。</p>	<p>《話すこと》</p> <p>① 絵や写真を示し、話し方、表情などを工夫しながら有名人を紹介するスピーチを行い、聞き手にスピーチの内容を伝えることができる。</p> <p>《書くこと》</p> <p>② 有名人を紹介するスピーチ原稿を適切に書いて表現することができる。</p>	<p>《聞くこと》</p> <p>① 学校を紹介した英文を、正確に聞き取ることができる。</p> <p>《読むこと》</p> <p>② 学校を紹介した英文を、正確に読み取ることができる。</p>	<p>《言語についての知識》</p> <p>① is(be動詞)を用いた文の意味と構造を理解している。</p>

4 指導と評価の計画（9時間扱い）

時間	ねらい・学習活動	評価 規準	評価方法
1	○ is(be 動詞)を使う文の理解と運用（肯定文） ・ is(be 動詞)の肯定文の構造を知る。 ・ プリントを通して、is(be 動詞)の肯定文の使い方を理解する。 ・ is(be 動詞)の肯定文を用いた文を使えるように口頭練習する。	エの①	後日ペーパー テスト
2	○ is(be 動詞)を使う文の理解と運用（疑問文・否定文） ・ is(be 動詞)の疑問文と否定文の構造を知る。 ・ プリントを通して、is(be 動詞)の疑問文と否定文の使い方を理解する。 ・ is(be 動詞)の疑問文と否定文を用いた文を使えるように口頭練習する。	エの①	後日ペーパー テスト
3	○ GET Part1 の内容理解（教科書 p.24-25） ・ point で、This(That) is～. Is this(that)～? の意味と構造の確認をする。 ・ 聞いてみよう の英文を聞き、問いに答える。 ・ 場面設定をオーラルイントロダクションで理解する。 ・ 新出単語の発音と意味を確認し、発音練習を行う。 ・ 教科書本文を音読する。 ・ 教科書本文の内容を理解する。	ウの① ウの②	プリント
4	○ GET Part2 の内容理解（教科書 p.26-27） ・ point で、What is～? This(That) is not～. の意味と構造の確認をする。 ・ 聞いてみよう の英文を聞き、問いに答える。 ・ 場面設定をオーラルイントロダクションで理解する。 ・ 新出単語の発音と意味を確認し、発音練習を行う。 ・ 教科書本文を音読する。 ・ 教科書本文の内容を理解する。	ウの① ウの②	プリント
5	○ GET Part3 の内容理解（教科書 p.28-29） ・ point で、She(He) is～. の意味と構造の確認をする。 ・ 聞いてみよう の英文を聞き、問いに答える。 ・ 場面設定をオーラルイントロダクションで理解する。 ・ 新出単語の発音と意味を確認し、発音練習を行う。 ・ 教科書本文を音読する。 ・ 教科書本文の内容を理解する。	ウの① ウの②	プリント
6	○ Words & Sounds2 の語彙理解／We're Talking のスピーキング活動 ・ プリントを通して、語彙と is(be 動詞)を確認する。 ・ ペアでのスキットの発表を行う。	エの①	活動の観察 後日ペーパー テスト
7	○ 「私の好きな有名人」についてのスピーチ原稿を作成する。 ・ 具体例を参考に、個人で、「私の好きな有名人」についての原稿を作成する。 ・ スピーチで使用する写真を入手する。	イの②	活動の観察 プリント
8	○ 「私の好きな有名人」についてのスピーチ発表練習、質問・応答練習をする。 ・ 本番とは異なるペアで「私の好きな有名人」についてスピーチ練習を行う。 ・ プリントを使い、対話を継続するための質問・応答練習を行う。	アの① イの①	活動の観察
9 (本時)	○ 「私の好きな有名人」についてのスピーチ発表をする。 ・ be 動詞を使った一問一答形式の質問・応答練習を行う。 ・ グループで「私の好きな有名人」についてスピーチする。 ・ スピーチの内容についての質問・応答を行う。 ・ 全体の前で「私の好きな有名人」についてスピーチする。	アの① イの①	活動の観察 評価カード

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ① 友達のスピーチに興味を持ち、グループで協力して質問したり、感想を述べたりしようとする。
(関心・意欲・態度)
- ② is(be 動詞)を使いスピーチを行い、内容を聞き手に伝えることができる。
(表現の能力)

(2) 本時の展開

過程と時配	学習内容と生徒の活動	指導上の留意点	評価
導入 (一斉)	3 ○ <u>ウォーミング・アップ</u> 歌 “Sing”	・教師が笑顔でリラックスした雰囲気を作る。	
展開 1 (全体)	10 ○ <u>ライン・アンド・ロウゲーム</u> ・各列(縦横)対抗で英会話ゲームを行う(前半は、教師が質問を出し生徒が答える。後半は、生徒が質問を出し教師が答える。さらに、それに反応する対話を継続させる)。	・答えられない生徒には教師がヒントを出すなど手助けをする。 { Q : Is he a singer? A : Yes, he is. Q : Oh, he's cool.	
展開 2 (ペア)	10 ○ <u>英会話ビンゴ</u> ・教室を歩きまわりペアを見つける。ペアでじゃんけんをし、質問者と解答者に分かれて会話をする。会話が終わったらお互いにサインをし合う。サインが縦・横・斜めのいずれか2列そろったらビンゴとなる。ビンゴしたら、教師にワークシートを見せに来る。	・ペアを見つけられない生徒や上手く質問や答えが作れない生徒を個別に支援する。 ・ペアで、教え合い、学び合いながら取り組めるように支援をする。 ・ポイント制にすることで、生徒の意欲を喚起する。	
展開 3 (グループ)	15 ○ <u>スピーチ「私の好きな有名人」</u> ・教師によるデモンストレーションを聞き、質問や感想を言う。 Who is she? Yes. This is Takahashi Naoko. She is a marathon runner. She is a gold medalist at 2000 Olympic Games in Sydney. She is from Gifu.	・生徒がわかりやすいような速さで、発表の見本を示す。 ・生徒の質問や感想に反応し、対話を継続しようとする。	

		<ul style="list-style-type: none"> ・グループで1人ずつ、スピーチを行う。 ・聞き手は、スピーチの内容について時間いっぱい質問・感想を述べる。 (1人あたり2分間会話を続ける) ・スピーチを聞きながら相互評価を行い、代表者を1人選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表・問答が上手くいっていないグループを支援する。 ・聞き手は、一人最低一つ質問や感想を述べるように促す。 ・2分が経過した際の合図を明確にし、どの班も同じペースで発表が進むように気を配る。 ・グループ代表者を決める際のポイントを示し、代表者がスムーズに決まりやすいよう支援する。 	<p>発表の観察 (目標②)</p> <p>活動の観察 (目標①)</p> <p>ワークシート</p>
展開 4 (全体)	8	<p>○ <u>スピーチ 全体発表会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～3グループの代表者がスピーチを行う。 ・クラス全体で、代表者のスピーチを聞き、スピーチの内容について、質問・感想を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表・問答が上手くいくように支援する。 ・発表者のよい所を全体に示すことで、発表者に自信を持たせ、聞き手に発表のポイントを周知させる。 	<p>活動の観察 (目標②)</p> <p>活動の観察 (目標①)</p>
まとめ	4	<p>○ <u>本時のまとめ</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が講評し、良い点・改善点を言い、次に生かせるようにする。 	

(3) 本時の評価

- ① 友達のスピーチに興味を持ち、グループで協力して質問したり、感想を述べたりしようとしたか。
(関心・意欲・態度)
- ② is(be 動詞)を使いスピーチを行い、内容を聞き手に伝えることができたか。
(表現の能力)